

## 銚子の鉄道

銚子は、関東地方で最も東にある港町です。犬吠埼では島嶼部<sup>とうしょぶ</sup>、高所を除く日本で最も早い初日の出が有名で元旦には多くの人を訪れます。また銚子は半島のようにいることから地元では「とっぱずれ」とも呼んでいます。昔から漁業や醤油製造、キャベツ栽培が盛んで、特に醤油の製造・キャベツ栽培は全国でもトップレベルです。そんな温暖で豊かな町を走る小さな鉄道があります。今では市の観光のシンボルとも言える銚子電鉄です。全長6.4km、終点まで約20分で結ぶ小私鉄。昔から地元の人や観光で訪れる人たちに親しまれており近代化が進む中、昭和を強調し懐かしさを感じさせながら訪れる人を満喫させてくれます。

銚子電鉄は開業から90年以上の歴史を持っており、最初に開業した「銚子遊覧鉄道」は大正2年に開業し経営難のためわずか4年後の大正6年で廃線になってしまいました。線路跡地には暁雞館自動車が運営する自動車専用道路が完成。銚子遊覧鉄道はこの時点で幻の鉄道となってしまいました。再度、鉄道敷設の案が出たのは3年後の大正10年(1921)で銚子～外川間を敷設計画が出ておりました。申請が通り翌11年(1922)には銚子鉄道を設立し大正12年(1923)に銚子鉄道、銚子～外川間が開業しました。開業から数年後には電化開業や笠上黒生駅新設、君ヶ浜駅新設と経営は順調に進んでおりましたが、昭和14年(1939)に今度は第二次世界大戦が勃発。銚子鉄道も施設や車両、変電所など戦時中に空爆を受け被害を受けたのです。銚子鉄道は戦争の影響により経営は悪化し経営困難な状況になり企業再建をする必要がありました。

昭和23年(1948)に銚子鉄道は解散され銚子電気鉄道株式会社を発足。銚子の鉄道は2度目のスタートをしたのです。開業して数年後には、国鉄や私鉄が協力しイベント列車を乗り入れさせ、観光客を地方へ足を運んでもらえるよう都会からの臨時直通列車の運行をさせ公共交通の「活気」があふれておりました。昭和40年代後半からは「マイカー普及」が急速に進み鉄道やバスを利用する人が減り始めたのもこの時代です。その影響が昭和40年代後半より銚子電鉄も経営難に陥ろうとしておりました。そんな中転機が訪れたのは昭和50年、当時大ヒットした「およげ!たいやきくん」をきっかけに銚子電鉄では「タイ焼き」の直営製造販売をすることになり、鉄道事業の新たな展開に話題を呼びました。そんな状況もつかの間で昭和59年には貨物営業を廃止。「モータリゼーション」すなわち鉄道からトラック輸送への展開が始まりました。

その頃、銚子電鉄の社員は交代で千葉駅やその周辺の駅構内などで街頭販売なども行いテレホンカードやキーホルダーなどの鉄道グッズを販売し鉄道収益の増収をすべくしのいでいました。そんな綱渡りのような事をしている矢先、当時の経理課長が

「煎餅はどうだ？」という一言から状況は一変。地元の醤油を使って銚子の発祥である「ぬれ煎餅」を銚子電鉄で製造販売しようと、鉄道とは全く関係のない「ぬれ煎餅」を販売することになったのです。ほぼ社員同士でぬれ煎餅の染み具合や大きさ醤油の味を吟味しながら数ヶ月掛けてようやく完成。「銚電のぬれ煎餅」と題し平成7年(1995)に製造販売開始したのです。それは会社経営難を一変するかのような出来事でした。煎餅の注文は殺到し地元で購入しようと大勢の人が銚子へ足を運んで「ぬれ煎餅」を購入してくれました。ローカル鉄道である銚子電鉄は小さな鉄道でありながら自ら経営悪化を止め「副業」という形で鉄道を支えている努力はたちまち全国に広まり話題を呼んだのです。しかし平成14年には国、県、市からの補助金打ち切りと告げられ、この時点で完全に単独化された銚子電鉄は更に経営を圧迫させたのです。ぬれ煎餅で鉄道赤字を何とか埋め合わせ、順調に進んでいたと思われた平成18年には電車の車検修繕費、経費、人件費等の維持が困難になり苦渋の選択の末、ネット上で「ぬれ煎餅を買ってください」と呼びかけたのです。その頃地方ローカル鉄道は1社、また1社と廃線へと追い込まれていった時期でもありました。

銚子電鉄でも「廃線」という言葉は直ぐ目の前に来ていました。「社員共々、もうダメかな」と思ったその時、この状況を見て知ったファンの方々や地元の方々の温かい支援が密かに広がっていたのです。ネット注文は今までにない大量の注文であふれ少しでも協力しようとわざわざ足を運んで銚子電鉄に乗りに来てはぬれ煎餅を購入してくれました。お陰で会社の危機は免れ銚子電鉄は人々から支えられながら存続することができたのです。これをきっかけに「皆様の温かいご支援が動力になっております」とネットで流し皆様への「感謝」を表しました。銚子電鉄は昔から鉄道一本で運営する小さな鉄道会社でありながら幾度となく経営危機に遭遇しそれを乗り越えてきました。

ローカル鉄道の取り巻く環境は何処に行っても厳しく過酷な状況にあります。鉄道にとって一番重要とされることは「地域との連携」にあります。信用、信頼、そして何よりも安全であること。鉄道は財産です。一度廃線になってしまうと二度と鉄道を敷くことは無いでしょう。鉄道があることによって地域の活性化を図れることは間違いありません。銚子電鉄は山あり谷ありと厳しい経営状況ではありますが、これからの時代は地域との協力と私たち一人一人が考えて行動に移すことも重要化されることは始まっております。若い世代の人たちが「鉄道」を守る重要なカギを握っていることを信じて新たな発想と想像を明日に受け継いでいって欲しいと思っております。銚子電鉄は地域の皆様の協力が必要不可欠なのです。